

# 第 15 回「西高フォーラム」

## ～公開シンポジウム～

共催 一般財団法人西高会  
都立西高同窓会  
後援 杉並区教育委員会

一般財団法人西高会と都立西高同窓会では、本年も杉並区教育委員会の後援を得て、「西高フォーラム」を下記の通り開催いたします。第 1 部ではパネリストによる討論、第 2 部では在校生とパネリストによるディスカッションを行います。

広く地域の皆様をはじめ生徒、保護者、教職員、同窓生のご参加をお待ちしております。土曜の午後のひととき、お楽しみいただきますようご案内申し上げます。  
(このご案内は、近隣の方々や西高関係者に配布しております。)

- 日時: 2019 年 6 月 1 日(土)13 時 10 分から 16 時 25 分 開場 12 時 30 分
- 会場: 都立西高視聴覚ホール (西高正門を入れて左側の建物)
- 入場無料、車でのご来場はご遠慮ください。

### 「人類が辿ってきた道 ～400 万年前から現在、未来へ～」

第 1 部 同窓生によるフォーラム 13:10～15:10

休憩

第 2 部 在校生と同窓生によるディスカッション 15:25～16:25

#### ■ 第 1 部 「同窓生によるフォーラム」

#### ■ コーディネーター



河野 礼子 (西高 42 期) 慶應義塾大学文学部・准教授

骨や歯の形態を 3 次元デジタルデータ化して分析する手法を通じて、天然の形状がどのようにつくられてくるのかに関心を持って研究してきました。そうした手法を使うことで、約 440 万年前のラミダス猿人から日本の旧石器時代人骨まで、さまざまな対象についての研究に関わってきました。アフリカ、ミャンマー、中国、石垣島などでの野外調査も経験しています。今回のフォーラムでは考古学や人類学といった、手法はそれぞれですが人間の過去について探る研究の楽しさを紹介し、その意義を考えていきたいと思ひます。

フォーラムについての問合せ先 同窓会事務局 TEL 03-3247-0765

## ■ パネリスト

### 近藤 二郎（西高 22 期） 早稲田大学文学部・教授、同大学エジプト学研究所・所長



1976 年 11 月、エジプトのルクソール西岸で発掘調査を開始。1980 年代より古代エジプト新王国第 18 王朝アメンヘテプ 3 世（在位：前 1388～前 1350 年頃）時代の王宮・王墓・岩窟墓を中心として発掘を継続し、今年で 43 年目。2007 年から同王の高官ウセルハトの墓の調査を実施。発掘調査を通じて得られた考古資料や文字（ヒエログリフ）資料を検討し、当時の社会や古代都市テーベを解明することを目指しています。エジプトの乾燥した風土は、豊富な考古遺物を有し、絵画資料や文字史料等、より詳細で具体的な古代社会の実像を描くことを可能としています。

### 佐藤 宏之（西高 27 期） 東京大学大学院・教授



日本およびアジアの旧石器時代と縄文時代の研究をテーマとしています。最近では現生人類のアジア南周リルートに関する調査プロジェクトを実施しており、東南アジアやインド・スリランカなどに出かけています。現生人類の日本列島への出現は従来 4 万年前頃と考えられてきましたが、最近の研究ではそれよりも古くなる可能性が考えられています。日本文化の起源となる日本旧石器時代の成立の研究は、世界の現生人類史研究と密接に関連しており、研究の最前線はかなりホットな展開を見せていますので、そのことを中心にフォーラムで紹介したいと思います。

### 藤田 祐樹（西高 44 期） 国立科学博物館・研究主幹



沖縄を中心に旧石器時代の人類史解明を目指した発掘調査を続けており、最近では、旧石器人の釣り文化や水産資源利用に関する研究を進めています。子どものころから動物好き（見る、捕まえる、食べる）なこともあり、人類がどのような環境で、どのような狩猟・漁猟活動を行い、その活動が動物の絶滅など自然環境にどのような影響を与えたかという問題に興味を持っています。私たちの研究成果を多くの方々に楽しんでもらいたいので、博物館の展示などを通じて広く情報発信していく心がけながら、日々の仕事に励んでいます。

## ■ 第 2 部 「在校生と同窓生によるディスカッション」

昨年、生物部員は、国立科学博物館で開催された企画展、「沖縄の旧石器時代が熱い！」をパネリストの藤田先生の案内で見学しました。そこには、河野先生が復元に関わった沖縄旧石器人のリアルな模型もあり、生徒たちの人類学に対する興味・関心が大いに喚起されました。また、休み時間に教室へ行くと、ユヴァル・ノア・ハラリ著、『サピエンス全史』を読んでいる生徒を見かけます。第 2 部では、人類の過去・現在・未来に関心の高い生徒たちが、パネリストの先生方とのディスカッションを通して、人類の過去を知ることの楽しさや、過去を知ることで見えてくるものを探っていきます。